

福井県海区漁業調整委員会委員候補者の推薦および応募状況（再公募） 最終公表（公募期間：令和7年3月16日～令和7年4月25日）

区分	推薦を受けた者							推薦した者					
	氏名	年齢	性別	職業	経歴	漁業経営状況		団体等名称	代表者職・氏名	団体等の目的	構成員		推薦理由
						従事年数	主な漁業種類				人数	構成員たる資格	
学識経験者	東村 玲子	53	女	准教授	平成15年4月1日～平成22年3月31日 福井県立大学海洋生物資源学部講師 （平成21年3月31日まで生物資源学部講師） 平成20年8月～ 福井海区漁業調整委員会 委員 平成22年4月1日～ 福井県立大学海洋生物資源学部准教授 平成25年5月25日 漁業経済学会 学会賞受賞 平成25年10月27日 地域漁業学会 学会賞受賞 平成27年8月～令和元年7月 水産政策審議会企画部会、資源管理分科会 委員 令和元年5月24日 海区漁業調整委員会委員表彰 令和5年8月～ 水産政策審議会 資源管理分科会 委員	－	－	越前町漁業協同組合	代表理事会長 小林 利幸	組合員が協同して経済活動を行い、漁業の生産能力をあげ、もって組合員の経済的、社会的地位を高めることを目的とする。	個人漁業者 268人	この組合の地区内に住所を有し、かつ、1年を通じて90日を超えて漁業を営み、またはこれに従事する漁民。	東村玲子氏は、資源管理の研究に30年近く従事して来た。特にズワイガニの管理に関しては造詣が深く、日本の実態分析のみならず、カナダ大西洋岸や米国アラスカ州との比較研究も行っており、その成果は2つの学会賞を受賞した著書『ズワイガニの漁業管理と世界市場』（成山堂書店、2013年）にまとめられている。 また、氏は福井海区漁業調整委員会委員として平成20年より18年間にわたり、福井県の漁業の秩序ある発展に寄与してきた。さらに平成27年から4年間、水産政策審議会企画部会、同資源管理分科会、および令和元年から同審議会資源管理分科会の委員を勤めている。 以上より、今後とも福井海区漁業調整委員会の委員として本県の漁業の振興に寄与することが期待され、ここに氏を推薦するものである。
公益代表者	馬上 敦子	53	女	団体職員	平成6年4月 社団法人大日本水産会 入会 （現在 一般社団法人大日本水産会） 平成24年4月 一般社団法人大日本水産会 漁政部業務課長 平成25年6月 一般社団法人大日本水産会 事業部業務課長 令和4年5月 一般社団法人大日本水産会 退会 平成23年1月 一般社団法人全国漁業就業者確保育成センター 出向 令和元年6月 一般社団法人全国漁業就業者確保育成センター 事務局長 令和4年4月 一般社団法人全国漁業就業者確保育成センター 事務局長	－	－	福井県漁業協同組合連合会	代表理事会長 小林利幸	会員が協同して経済活動を行い、所属員の漁業の生産能力の向上等その事業の振興を図り、もって所属員の経済的、社会的地位を高めること	17団体	福井県の全部若しくは一部を地区とする漁業協同組合若しくは漁業協同組合連合会又はこの連合会の地区内に住所を有する漁業生産組合は、正組合員となることができる。	馬上氏は、平成21年より漁業就業者対策の事業に関わり、水産庁、各都道府県の漁業就業者対策の担当窓口として、これまで漁業種別団体や全日本海員組合と連携し、漁業就業者対策に積極的に取り組まれてきた。 また、馬上氏は漁業就業支援フェア、全国の水産高校で開催する漁業ガイダンスおよび安全対策事業など漁業就業者に関する様々な活動を企画、運営、コーディネートをととして、日本の漁業に関する見識もそなえられている。 これらのことから、福井海区漁業調整委員として、漁業に関する様々な事項を公平に審議し、本県の漁業の発展に寄与することが期待されるため。